

<事業名> そば研究会

団体名	そば研究会
所在地	豊岡市宮井
代表者名	会長 岡下 修

事業内容	<p>但馬には、町、村おこしの基幹としてそばを活用している地域がある。これらの実態を調べるとともに、そば粉を使ったいろいろな料理を工夫した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業の計画</li> <li>2. 赤花そばの郷見学、そば打ち体験。出石観光協会・皿そばめぐり</li> <li>3. そば粉を使った料理実習</li> <li>4. 活動のまとめ、資料づくり</li> </ol>	
地域	但馬全域	
事業の効果	<p>①団体（組織）内の効果          今までは、毎年そば会を行い、そば打ちを楽しむことが主であったが、今回の事業を行うことにより、そばに対する理解も深まり、そばを積極的に活用する姿勢が出てきた。</p> <p>②地域への効果          活動メンバーが地域を訪問し、そば打ちを体験したりそば巡りをしたりすることにより、地域の人々を元気づけたり地域の活性化に役立っている。また、そば料理実習の試食に参加した多くの人に、そばの奥深さをあらためて知ってもらうことができた。</p>	
事業経過	年 月 日	
	30年4月13日	打合せ、事業実施計画
	30年4月24日	打合せ、事業実施計画
	30年5月8日	打合せ、事業実施計画
	30年5月22日	赤花そばの郷（但東町）施設見学、そば打ち体験
	30年5月29日	出石町観光協会（出石町）講義を聞く、見学、皿そば巡り
	30年6月12日	資料整理
	30年6月26日	料理実習① そば寿司、そばぜんざい、そば稲荷 他7品
	30年7月1日	料理実習② 講師 河原千尋 氏
	30年9月25日	そばうち実習 講師 五十嵐丈人 氏
	30年10月2日	現地視察（日高町）そば畑見学、「わらく」でそばを食す。
	30年10月16日	打合せ、まとめ
	30年11月6日	打合せ、まとめ
	30年12月7日	実践活動発表
	31年2月5日	打合せ、まとめ、反省会

協働の相手方	特になし
今後の課題等	<p>〈事業を実施する上での課題〉</p> <p>①団体（組織）の課題 メンバーは但馬文教府大学院の同級生という強いつながりがあったが、卒業と共にそのつながりはなくなる。メンバー構成を含めて、1から組織作りを行い、リーダーをはじめ、役割分担をしっかりとる必要がある。</p> <p>②地域の課題 出かけた地域では、どこも温かく迎えていただいた。我々が積極的に地域に出かけ、交流することが何よりも大切である</p> <p>〈31年度以降の事業計画〉 毎月12月に「そば会」を実施する。</p>



30年5月22日 赤花そばの郷 施設見学



30年5月22日 赤花そばの郷 そば打ち体験



30年5月29日 出石町観光協会 加藤勉氏講話



30年7月1日 そば粉を使った調理実習

但馬の研究 成果発表

高齡者大「みてやま学園」大学院生ら  
七福神やそば物語などテーマ

演奏を披露する銭太鼓のグループ＝但馬文教府

豊岡 高齡者大「みてやま学園」大学院生ら  
七福神やそば物語などテーマ

高齡者大「みてやま学園」大学院生ら七福神やそば物語などテーマを披露する「みてやま学園」の大学院で、卒業生ら約200人が熱心に聴き入った。

フォーラムは、院生の発表の場として毎年実施。今年には2年生18人が、「豊岡のフリ町歩き」「美味しい「但馬のそば」の物語」「但馬七福神めぐり」3班に分かれて研究に取り組んできた。

この日は各班が、町でとれたそばが、町でとれたそばが使われているかを調べたアンケート結果を披露したり、そばの調理実習の様子、七福神を実際に訪ねた様子を紹介したりした。有志の銭太鼓グループも、老人ホームなどでの活動を紹介。演技を披露した。

代表であいさつした豊岡市の谷岡まささん(66)は、「資料を集め、現場を回る中で、但馬の風土や深さを知り、充実した研究ができた。これからは「生勉強、一生青春を賣きたい」と締めくくった(阿部利利)